



SYSLOG コマンド

この章は、次の項で構成されています。

- [aaa logging](#) (2 ページ)
- [clear logging](#) (3 ページ)
- [clear logging file](#) (4 ページ)
- [file-system logging](#) (5 ページ)
- [logging buffered](#) (6 ページ)
- [logging console](#) (7 ページ)
- [logging file](#) (8 ページ)
- [logging host](#) (9 ページ)
- [logging on](#) (11 ページ)
- [logging source-interface](#) (12 ページ)
- [logging source-interface-ipv6](#) (13 ページ)
- [logging aggregation on](#) (14 ページ)
- [logging aggregation aging-time](#) (15 ページ)
- [logging origin-id](#) (16 ページ)
- [logging cbd module](#) (17 ページ)
- [logging cbd level](#) (18 ページ)
- [show logging](#) (19 ページ)
- [show logging file](#) (20 ページ)
- [show syslog-servers](#) (21 ページ)

aaa logging

AAA ログインのロギングを有効にするには、**aaa logging** グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。AAA ログインのロギングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

aaa logging {login}

no aaa logging {login}

パラメータ

login : 成功した AAA ログイン イベント、失敗した AAA ログイン イベント、およびその他の AAA ログイン 関連のイベントに関連するメッセージのロギングを有効にします。

デフォルト設定

有効

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

このコマンドは、正常に完了したログイン イベント、失敗したログイン イベント、およびその他のログイン 関連のイベントに関連するメッセージのロギングを有効にします。他のタイプの AAA イベントは、このコマンドの対象になりません。

例

次の例では、AAA ログイン イベントのロギングを有効にしています。

```
switchxxxxxxx(config)# aaa logging login
```

clear logging

内部ロギングバッファからメッセージをクリアするには、**clear logging** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

構文

clear logging

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

なし

コマンドモード

特権 EXEC モード

例

次の例では、内部ロギングバッファからメッセージをクリアしています。

```
switchxxxxxx# clear logging
Clear Logging Buffer ? (Y/N) [N]
```

clear logging file

ロギングファイルからメッセージをクリアするには、**clear logging file** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

構文

clear logging file

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

なし

コマンドモード

特権 EXEC モード

例

次の例では、ロギングファイルからメッセージをクリアしています。

```
switchxxxxxx# clear logging file  
Clear Logging File [y/n]
```

file-system logging

ファイルシステム イベントのロギングを有効にするには、**file-system logging** グローバル コンフィギュレーションモードコマンドを使用します。ファイルシステム イベントのロギングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
file-system logging {copy / delete-rename/}
```

```
no file-system logging {copy / delete-rename/}
```

パラメータ

- **copy** : ファイル コピー操作に関連するメッセージのロギングを指定します。
- **delete-rename** : ファイル削除操作および名称変更操作に関連するメッセージのロギングを指定します。

デフォルト設定

有効

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

次の例では、ファイル コピー操作に関連するメッセージのロギングを有効にしています。

```
switchxxxxxx(config)# file-system logging copy
```

logging buffered

SYSLOG メッセージの出力を特定のシビラティ（重大度）のメッセージに制限し、バッファサイズ（保存できるメッセージの数）を定義するには、**logging buffered** グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。SYSLOG メッセージの出力をキャンセルし、バッファ サイズをデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

logging buffered [*buffer-size*] [*severity-level* / *severity-level-name*]

no logging buffered

パラメータ

- **buffer-size** : (オプション) バッファに保存されるメッセージの最大数を指定します。(範囲: 20 ~ 1000)
- **severity-level** : (オプション) バッファにロギングするメッセージのシビラティ (重大度) を指定します。設定できる値は 1 ~ 7 です。
- **severity-level-name** : (オプション) バッファにロギングするメッセージのシビラティ (重大度) を指定します。設定可能な値は、**emergencies** (緊急)、**alerts** (アラート)、**critical** (重大)、**errors** (エラー)、**warnings** (警告)、**notifications** (通知)、**informational** (情報)、**debugging** (デバッグ) です。

デフォルト設定

デフォルトのシビラティ (重大度) レベルは **informational** です。

デフォルトのバッファ サイズは 1000 です。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

すべての SYSLOG メッセージが内部バッファにロギングされます。このコマンドは、ユーザに表示されるメッセージを制限します。

例

次の例では、内部バッファからの SYSLOG メッセージの出力をシビラティ (重大度) が **debugging** のメッセージに制限する 2 つの方法を示しています。2 番目の例では、バッファ サイズを 100、シビラティ (重大度) を **informational** に設定しています。

```
switchxxxxxx(config)# logging buffered debugging
switchxxxxxx(config)# logging buffered 100 informational
```

logging console

コンソールにロギングするメッセージを特定のシビラティ（重大度）のメッセージに制限するには、**logging console** グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。デフォルトに戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を入力します。

構文

logging console *level*

no logging console

パラメータ

level : ロギングしたメッセージのうちコンソールに表示するメッセージのシビラティ（重大度）を指定します。設定可能な値は、**emergencies**（緊急）、**alerts**（アラート）、**critical**（重大）、**errors**（エラー）、**warnings**（警告）、**notifications**（通知）、**informational**（情報）、**debugging**（デバッグ）です。

デフォルト設定

Informational

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

次の例では、コンソールに表示するロギングメッセージをシビラティ（重大度）が **errors** のメッセージに制限しています。

```
switchxxxxxx(config)# logging console errors
```

logging file

ロギングファイルに送信される SYSLOG メッセージを特定のシビラティ（重大度）のメッセージに制限するには、**logging file** グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。ファイルへのメッセージの送信をキャンセルするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

logging file *level*

no logging file

パラメータ

level : ロギング ファイルに送信される SYSLOG メッセージのシビラティ（重大度）を指定します。設定可能な値は、emergencies（緊急）、alerts（アラート）、critical（重大）、errors（エラー）、warnings（警告）、notifications（通知）、informational（情報）、debugging（デバッグ）です。

デフォルト設定

デフォルトのシビラティ（重大度）レベルは **errors** です。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

次の例では、ロギング ファイルに送信される SYSLOG メッセージをシビラティ（重大度）が **alerts** のメッセージに制限しています。

```
switchxxxxxx(config)# logging file alerts
```


logging host

指定した SYSLOG サーバにメッセージをロギングするには、**logging host** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。SYSLOG サーバの一覧から指定したアドレスを持つ SYSLOG サーバを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
logging host {ip-address | ipv6-address | hostname} [port port] [severity level] [facility facility]  
[description text]
```

```
no logging host {ipv4-address | ipv6-address | hostname}
```

パラメータ

- **ip-address** : SYSLOG サーバとして使用するホストの IP アドレス。IP アドレスには、IPv4、IPv6 または IPv6z アドレスを使用できます。
- **hostname** : SYSLOG サーバとして使用するホストのホスト名。IPv4 アドレスへの変換のみがサポートされています。（範囲：1～158 文字。ホスト名の各部分の最大ラベルサイズ：63）。
- **port port** : (オプション) SYSLOG メッセージのポート番号。指定しない場合、ポート番号はデフォルトの 514 になります。（範囲：1～65535）
- **severity level** : (オプション) SYSLOG サーバへのメッセージのロギングを指定されたシビラティ（重大度）に制限します。Emergencies、Alerts、Critical、Errors、Warnings、Notifications、Informational、Debugging のいずれかです。
- **facility facility** : (オプション) メッセージに示されているファシリティ。local0、local1、local2、local3、local4、local5、local6、local7 のいずれかの値になります。指定しない場合、ポート番号はデフォルトの local7 になります。
- **description text** : (オプション) SYSLOG サーバの説明。（範囲：最大 64 文字）

デフォルト設定

メッセージは、SYSLOG サーバにロギングされません。

指定しない場合、シビラティ（重大度）はデフォルトの Informational になります。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

複数の SYSLOG サーバを使用できます。

例

```
switchxxxxxx(config)# logging host 1.1.1.121  
switchxxxxxx(config)# logging host 3000::100/SYSLOG1
```

logging on

メッセージのロギングを有効にするには、**logging on** グローバルコンフィギュレーションモードコマンドを使用します。このコマンドは、デバッグメッセージまたはエラーメッセージを指定の場所に非同期に送信します。ロギングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

logging on

no logging on

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

メッセージのロギングは有効になっています。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

次の例では、エラーメッセージのロギングを有効にしています。

```
switchxxxxxx(config)# logging on
```

logging source-interface

IPv4 SYSLOG サーバと通信するために IPv4 アドレスを送信元 IPv4 アドレスとして使用する送信元インターフェイスを指定するには、**logging source-interface** グローバル コンフィギュレーションモードコマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

logging source-interface *interface-id*

no logging source-interface

パラメータ

interface-id : 送信元インターフェイスを指定します。

デフォルト設定

送信元 IPv4 アドレスは、発信インターフェイスで定義され、ネクストホップ IPv4 サブネットに属する IPv4 アドレスです。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーションモード

使用上のガイドライン

送信元インターフェイスが発信インターフェイスの場合は、ネクストホップ IPv4 サブネットに属するインターフェイス IP アドレスが適用されます。

送信元インターフェイスが発信インターフェイスでない場合は、送信元インターフェイスで定義された最小 IPv4 アドレスが適用されます。

使用可能な IPv4 送信元アドレスがない場合は、IPv4 SYSLOG サーバと通信しようとする、SYSLOG メッセージが発行されます。

送信元インターフェイスとして OOB は定義できません。

例

次の例では、VLAN 10 を送信元インターフェイスとして設定します。

```
switchxxxxxx(config)# logging source-interface vlan 100
```

logging source-interface-ipv6

IPv6 SYSLOG サーバと通信するために IPv6 アドレスを送信元 IPv6 アドレスとして使用する送信元インターフェイスを指定するには、**logging source-interface-ipv6** グローバル コンフィギュレーションモードコマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

logging source-interface-ipv6 *interface-id*

no logging source-interface-ipv6

パラメータ

interface-id : 送信元インターフェイスを指定します。

デフォルト設定

IPv6 送信元アドレスは、発信インターフェイスの定義済みの IPv6 アドレスであり、RFC6724 に従って選択されます。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

送信元インターフェイスが発信インターフェイスの場合は、このインターフェイスに定義された IPv6 アドレスになり、RFC 6724 に従って選択されます。

送信元インターフェイスが発信インターフェイスでない場合は、送信元インターフェイス上で宛先 IPv6 アドレスの範囲で定義された最小 IPv6 アドレスが適用されます。

使用可能な IPv6 送信元アドレスがない場合は、IPv6 SYSLOG サーバとの通信を試行する際に SYSLOG メッセージが発行されます。

例

次の例では、VLAN 10 を送信元インターフェイスとして設定します。

```
switchxxxxxx(config)# logging source-interface-ipv6 vlan 100
```

logging aggregation on

SYSLOG メッセージの集約を制御するには、**logging aggregation on** グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。集約を有効にすると、ロギング メッセージが時間間隔ごとに (**logging aggregation aging-time** (15 ページ) で指定されているエージング タイムに従って) 表示されます。SYSLOG メッセージの集約を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

logging aggregation on

no logging aggregation on

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

無効

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

SYSLOG メッセージの集約をオフにするには、次のようにします。

```
switchxxxxxx(config)# no logging aggregation on
```

logging aggregation aging-time

集約した SYSLOG メッセージのエージング タイムを設定するには、**logging aggregation aging-time** グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。SYSLOG メッセージは、**aging-time** パラメータによって設定された時間間隔の間集約されます。デフォルトに戻るには、**no** 形式のコマンドを使用します。

構文

logging aggregation aging-time *sec*

no logging aggregation aging-time

パラメータ

aging-time *sec* : 秒単位 (範囲 : 15 ~ 3600) のエージング タイム。

デフォルト設定

300 秒

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

```
switchxxxxxx(config)# logging aggregation aging-time 300
```

logging origin-id

SYSLOG サーバに送信される SYSLOG メッセージパケットヘッダーの `origin` フィールドを設定するには、**logging origin-id** グローバルコンフィギュレーションモードコマンドを使用します。デフォルトに戻るには、**no** 形式のコマンドを使用します。

構文

```
logging origin-id {hostname | IP | IPv6 | string user-defined-id}
```

```
no logging origin-id
```

パラメータ

- **hostname** : システム ホスト名は、メッセージ発信元識別子として使用されます。
- **IP** : メッセージ発信元識別子として使用される送信インターフェイスの IP アドレス。
- **IPv6** : メッセージ発信元識別子として使用される送信インターフェイスの IPv6 アドレス。送信インターフェイスが IPv4 の場合は、代わりに IPv4 アドレスが使用されます。
- **string user-defined-id** : ユーザが選択する識別説明を指定します。*user-defined-id* 引数は、識別子を説明する文字列です。

デフォルト設定

ヘッダーは、PRI フィールドと別に送信されません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

```
switchxxxxxx(config)# logging origin-id string "Domain 1, router B"
```


logging cbd module

Cisco Business Dashboard (CBD) ログイングでサポートされるモジュールを定義するには、**logging cbd module** グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。デフォルトに戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を入力します。

構文

logging cbd module {*module* [*module2* ... *module6*] | **none** | **all**}

no logging cbd module

パラメータ

- **module** - list includes: *call-home*, *discovery*, *northbound*, *services*, *southbound*, *system*. このリストは、以前に設定されたリストを置き換えます。
- **none** : すべてのモジュールのログイングを無効にします。
- **all** : すべてのモジュールのログイングを有効にします。

デフォルト設定

CBD のログイングはすべてのモジュールで有効になっています。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

この設定は、CBD エージェントのログイングに影響します。

例

次に、すべての CBD モジュールのログイングメッセージを有効にする例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# logging cbd module all
```

logging cbd level

Cisco Business Dashboard (CBD) に記録されるメッセージを特定のシビラティ (重大度) レベルのメッセージに制限するには、**logging cbd level** グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。デフォルトに戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を入力します。

構文

logging cbd level *level*

no logging cbd level

パラメータ

level : ログしたメッセージのうちコンソールに表示するメッセージのシビラティ (重大度) を指定します。使用可能な値は、**errors**、**warnings**、**informational**、および **debugging** です。これにより、このレベル以上のメッセージのログが有効になります。

デフォルト設定

Informational

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

次に、CBD のメッセージのログをシビラティ (重大度) レベル **errors** のメッセージに制限する例を示します。

```
switchxxxxxxx(config)# logging cbd errors
```

show logging

内部バッファに保存されているロギング ステータスおよび SYSLOG メッセージを表示するには、**show logging** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

構文

show logging

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

なし

コマンドモード

特権 EXEC モード

例

次に、内部バッファに保存されているロギング ステータスおよび SYSLOG メッセージを表示する例を示します。

```
switchxxxxx# show logging
Logging is enabled.
```

Origin id: hostname

```
Console Logging: Level info. Console Messages: 0 Dropped.
Buffer Logging: Level info. Buffer Messages: 61 Logged, 61 Displayed, 200 Max.
File Logging: Level error. File Messages: 898 Logged, 64 Dropped.
4 messages were not logged
Application filtering control
Application          Event                      Status
-----
AAA                  Login                      Enabled
File system          Copy                       Enabled
File system          Delete-Rename             Enabled
Management ACL       Deny                      Enabled
Aggregation: Disabled.
Aggregation aging time: 300 Sec
Logging cbd level: Informational
Logging cbd modules Enabled: call-home
01-Jan-2010 05:29:46 :%INIT-I-Startup: Warm Startup
01-Jan-2010 05:29:02 :%LINK-I-Up:  Vlan 1
01-Jan-2010 05:29:02 :%LINK-I-Up:  SYSLOG6
01-Jan-2010 05:29:02 :%LINK-I-Up:  SYSLOG7
01-Jan-2010 05:29:00 :%LINK-W-Down:  SYSLOG8
```

show logging file

ロギングファイルに保存されているロギングステータスおよびSYSLOGメッセージを表示するには、**show logging file** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

構文

show logging file

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

なし

コマンドモード

特権 EXEC モード

例

次に、ロギングファイルに保存されているロギングステータスおよびSYSLOGメッセージを表示する例を示します。

```
switchxxxxx# show logging file
Logging is enabled.
```

Origin id: hostname

```
Console Logging: Level info. Console Messages: 0 Dropped.
Buffer Logging: Level info. Buffer Messages: 61 Logged, 61 Displayed, 200 Max.
File Logging: Level error. File Messages: 898 Logged, 64 Dropped.
4 messages were not logged
Application filtering control
Application          Event                      Status
-----
AAA                  Login                       Enabled
File system          Copy                         Enabled
File system          Delete-Rename               Enabled
Management ACL      Deny                        Enabled
Aggregation: Disabled.
Aggregation aging time: 300 Sec
1-Jan-2010 05:57:00 :%SSHD-E-ERROR: SSH error: key_read: type mismatch: encoding error
01-Jan-2010 05:56:36 :%SSHD-E-ERROR: SSH error: key_read: type mismatch: encoding error
01-Jan-2010 05:55:37 :%SSHD-E-ERROR: SSH error: key_read: type mismatch: encoding error
01-Jan-2010 05:55:03 :%SSHD-E-ERROR: SSH error: key_read: key_from_blob bgEgGnt9
z6NHgZwKI5xKqF7cBtdl1xmFgSEWuDhho5UedydAjVvKS5XR2... failed
01-Jan-2010 05:55:03 :%SSHD-E-ERROR: SSH error: key_from_blob: invalid key type.
01-Jan-2010 05:56:34 :%SSHD-E-ERROR: SSH error: bad sigbloblen 58 != SIGBLOB_LEN
console#
```

show syslog-servers

SYSLOG サーバ設定を表示するには、**show syslog-servers** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

構文

show syslog-servers

パラメータ

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

なし

コマンドモード

特権 EXEC モード

例

次の例では、SYSLOG サーバに関する情報を提供しています。

```
switchxxxxxx# show syslog-servers
Source IPv4 interface: vlan 1
Source IPv6 interface: vlan 10
Device Configuration
-----
IP address      Port    Facility Severity Description
-----
1.1.1.121       514     local7    info
3000::100       514     local7    info
OOB host Configuration
-----
IP address      Port    Facility Severity Description
-----
2.1.1.200       514     local7    warning
```

```
show syslog-servers
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。